

令和2年度学校評価表(評価項目・評価の観点)

学校番号	75
------	----

長野県梓川高等学校

5: 十分 4: ほぼ十分 3: どちらともいえない 2: やや不十分 1: 不十分

*「評価項目」の()数字は、今年度重点目標の項目番号

領域	対象	R02 評価項目	R02 評価の観点	本年度の成果と課題	評価	具体的な改善策・向上策	
教育活動	教育課程	(1) 新学習指導要領に基づいた教育課程の編成	生徒の意欲を引き出し、進路実現につながるよう新教育課程を編成することができたか。	令和4年度から実施する教育課程を編成することができた。進路目標が達成できるよう、コース制を継続し、探究が深まるようにした。	5	探究的な学びが深まるよう、教科横断的な学びを取り入れ、3年間を見通した具体的な内容を計画する。	
	学習指導	(1) 基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導	生徒の学力実態に対応し、指導・評価の工夫や教材作成に取り組んでいるか。朝学習を通して基礎学力の定着が図られたか。	コロナによりSHRに体調チェックが加わり十分な朝学習の時間が取れなかった。成績上位者の表彰は生徒のモチベーションとなった。	2	朝学習に全員が取り組めるような仕組み作りを考えていきたい。	
		授業評価による授業改善	体験学習、授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業の計画・改善に努めているか。	公開授業等を通じ、また授業アンケートから授業改善に取り組んだ。	3	授業アンケートの方式の改善により、生徒の評価を速やかに授業改善へと繋げられる形に検討したい。	
	進路指導	(1) 3年間を見通した計画的な進路指導	学年や個に応じた進路指導計画の策定と適切な進路情報を幅広く収集整理し、積極的かつ適正に活かしているか。	コロナの影響で計画したものの実施できないものもあったが、各学年時期を見て必要な情報を冊子等を通じて生徒に渡し、進路の現状について確認をしている。	4	コロナ禍においても諸計画を実施・補完できるような対策が必要。ICT機器の使用等。また、早い段階からの進路への意識付け及びオープンキャンパスや企業見学の参加も促したい。	
		進路希望の実現と職業理解の促進	働くことの意味と責任を自覚し、社会の一員として生きる力を育成するために、1学年からの意識付けや、ワーキングセミナー、各種適性検査等の実施ができたか。	1年は将来を見据えて、進路を大きくくりで考えさせており、2年は次年度の就職・進路に繋がる指導として各種ガイダンスを実施。3年は進路実現に向け活動し、就職・進学ともに多くの生徒は決定できている。	3	コロナの影響により就職活動は厳しさを増した。この影響は今後も続くことが考えられるため、更なる企業研究及びしっかりとした試験準備が必要。進路ガイダンス・企業説明会も引き続き適宜実施したい。	
	生徒指導	(1) 基本的な生活習慣の確立	全職員の協力で生徒指導に当たり、集団生活のマナーやルール遵守の定着を図っているか。	様々な問題に対して、担任・学年・管理職とともに、連携を取り合い、チームで対応する体制をとっている。	4	例年に比べて問題行動および校内での盗難は減少した。空き教室の見回り等の効果があったように思われる。一方通学時の交通事故の増加が見られた。予防策を引き続き検討していく必要がある。	
		生徒相談体制の充実	生徒の状況を把握し、関係者間の連絡を密にして適切な支援体制を整えているか。	相談件数が多かったが、SCやSSWの協力のもと、対応することができた。	5	次年度から面接週間を設け、生活アンケートを生徒相談・支援に活かす体制を整えたい。	
	生徒会	(3) 自主的、主体的に行動する生徒の育成	・生徒の主体的な活動を支援し、主体的・対話的な学びによる自己肯定感を育てることができたか。 ・安全に配慮し、活動することができたか。	プチKAWAワーク(地域交流会)をきっかけに満蒙開拓団紙芝居プロジェクトがスタートし、先輩方からの活動の継続と地域の方々との交流を行うことができた。コロナ禍で制約が多かったが、安全対策をして臨機応変に対応し活動することができた。集中ミーティング等生徒が主体的に運営する姿が多く見られるようになった。	4	感染症予防対策に一層の配慮をしつつ、集会やイベントの運営方法や内容について検討していきたい。今年度は文化祭において、探求学習の発表を行うことができた。引き続き、「総合的な探求の時間」の中間発表的要素を盛り込むことができるよう取り組んでいきたい。	
	学校運営	組織運営	(1) 学校評価の充実	学校評価を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。	生徒、保護者の困り感をアンケート結果を通して、職員間で共有することができた。即対応し改善できたものもあるが、学習指導等は、継続して改善を図っていく必要がある。	4	後期の生徒アンケートはオンラインで実施することができた。次年度からは保護者アンケートもオンラインで実施したい。
			情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的・迅速に公開・提供をしているか。	アンケートで、学校の様子がよくわからないという保護者の声が複数あった。コロナ禍で行事等少なかつたこともあるが、情報発信が不十分な面があった。	3	HPの更新やメール配信の回数を増やす他、学年、クラスからの情報提供も増やしていきたい。
地域連携		(1) 地域の声を教育活動に生かす	様々な場面で地元との連携を図り、地域の声を教育活動に生かしているか。	学校評議員、地域モニターの方に来校いただき、アドバイスや励ましの言葉をもらうことができた。	4	引き続き連携の機会をもち、コロナ禍が明けた時には実践していきたい。	
		地域と連携した教育	地域と連携した学習や体験活動を通して、生徒の学習意欲を引き出しているか。	コロナ禍で、1年の福祉体験等、活動できないものが多かったが、地域の企業の支えがあって、インターンシップに希望生徒が参加することができた。	3		
校内研修	(1) 授業・学習指導法の改善	・ICTの活用やオンライン授業等、新たな学びについて研修を行い、教科指導で実際活用することができたか。 ・公開授業・研究授業の振り返りにより指導改善につながったか。	・臨時休校をきっかけに、オンラインで指導できる体制づくりを始めた。GIGAスクールサポーターによる研修会や校内での職員研修を通して、少しずつICT活用のスキルをあげることができた。 ・指定研修等、授業研究会を3回実施することができた。校内外の参加者による意見交換会を通して指導改善につなげることができた。	4	授業での実際の活用例について、教員間で共有を図り、オンラインによる指導を実際の授業で取り入れられるようにする。		
	生徒の理解	多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びつく研修となっているか。	SCを講師に招き、本校生徒の状況について研修を受けた。生徒相談・生徒支援の方法について理解を深めることができた。	4	SCやSSWによる研修は継続して実施したい。		